

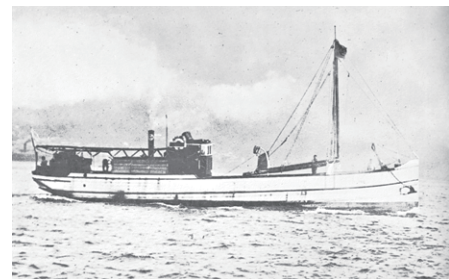
# 140年の時を超えて

～おいしさをお届けしてきた私たちのこれまで～

140年に及ぶ歴史の中で幾多の荒波を乗り越え、つねに新たな可能性に挑戦し続けてきたマルハとニチロ。経営統合を果たし、マルハニチロとして今、次の100年をめざして新たな時代の創造にまい進しています。その原動力は、「本物・安心・健康な『食』の提供を通じて、人々の豊かなくらしとあわせに貢献したい」という想いです。

## 1880年～

### 近代漁業形成期



#### ”水産業のパイオニア”として近代漁業と水産加工の礎を築く

マルハは1880年に鮮魚仲買、鮮魚運搬業として創業し、その後、遠洋漁業（なかでも捕鯨業）へと進出しました。一方のニチロは同じく漁業会社として1907年に創業し、ロシア付近でのサケを漁獲するとともに、缶詰に加工して販売していました。この時代にマルハとニチロは“わが国における水産業のパイオニア”として近代漁業と水産加工の礎を築いていきました。

#### 主な提供価値

- 近代漁業と水産加工技術の確立

## 1977年～

### 遠洋漁業終焉期



#### 漁業継続の困難から新業態へ転換

1977年、200海里漁業規制によって遠洋漁業が規制され、それまで両社の収益源だった漁業の継続が困難になりました。

この危機に際し、マルハは「世界から多くの魚を買い付けて国民に届けたい」という想いで水産商事の道へ大きく舵を取る一方、ニチロは「国民がより使いやすい形に食品を加工し、届けたい」という想いを胸に、食品メーカーの道へと針路をとる転換期となりました。

#### 主な提供価値

- 高度成長期に即した動物性たんぱく質の供給

## 2007年～

### 新体制構築期



#### 「水産物調達力」「商品開発力」を備えた総合食品企業の誕生

2007年に(株)マルハグループ本社と(株)ニチロが経営統合し、マルハの持つ「海外からの水産物調達力」とニチロの持つ「商品開発力」を生かした「総合食品企業」として生まれ変わりました。

また、統合に伴って「水産」「食品」「畜産」「保管物流」の事業ごとに会社を再編し、高齢化・核家族化など人々の生活様式の変化に対応可能な組織への進化を実現しました。

#### 主な提供価値

- 生活様式の変化に対応した製品の開発と提供

## 2014年～

### 価値創造推進期



#### 社会変化と共生し、新しい価値を生み出す企業へ

2014年、グループ内主要6社が統合し、「マルハニチロ株式会社」に商号を変更しました。これによりユニット経営を推進することが可能となりより戦略的かつ効果的に成長戦略を実行し、グローバル領域における収益を拡大できる体制を構築しました。2015年には民間企業として初の完全養殖クロマグロの出荷を開始するなど、社会に新しい価値を創出し続け、2020年には創業140周年を迎えています。

#### 主な提供価値

- 水産資源の保全に向けた養殖技術の開発と実践

#### 経営統合後の業績推移

